



○教育活動推進テーマ 「みんなで作る楽しい学校」

○教育活動スローガン 「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる」

はじめに

府中市立府中第六小学校は、第3次府中市学校教育プランの基本理念である「全ての子供が、ふるさと府中に誇りをもち、知性や感性を磨き、豊かな人間性を備え、心身ともに健康に成長する」力を育むため、本校の教育環境と協力的で温かな地域、近隣の浅間山や郷土の森公園等の豊かな自然環境、市立美術館等の文化的環境を十分に生かし、次の資質・能力を備えた人材の育成を目指す。

〔府中市が育成を目指す人間像〕

【人権感覚と規範意識】他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人

【社会的な資質・能力】社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人

【確かな学力】自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人

教育指導に当たっては、教育活動推進テーマ「みんなで作る楽しい学校」、教育活動スローガン「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる」を基に、一人一人のよさを認め、互いに学び合う教育を基調とし、自主・自律の精神を育む。

相手の話を目と耳と心に向けて聴き、落ち着いた学習環境の中で基礎・基本を定着させ、学んだことを生活や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性、実際の社会や生活で生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力など三つの力をバランスよく育成する。

また、府中版コミュニティ・スクールの機能を活用し、保護者、地域、専門家等と連携・協働しながら、学力を底上げする学習支援、安心して学校生活を送るための環境支援を進める。そして、共感的で多面的な児童理解を基に、「きづく」「つながる」「たかめる」教育を全教職員で推進し、知識や考え方を活用・実践する質の高い教育内容や多様な人とのかかわり・体験的な学びを工夫し、心豊かに生き生きと学ぶ児童を育成する。

1 府中第六小学校の教育目標

日本国憲法、教育基本法、東京都教育委員会及び府中市教育委員会の教育目標を踏まえ、人権尊重の精神を基盤として、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力をもつ児童を育てるために、次の目標を設定する。

○自分で学べる子（知）

☆は重点目標

生涯を通して主体的に学び続けることができる子【課題設定・課題対応力】

○仲よく助け合う子（徳）

協力し合ってよりよい社会生活ができる子【人間関係形成力】

☆たくましい子（体）

困難に立ち向かう強い心と体をもつ子【やりぬく力】

2 学校経営の基本理念

「チーム府中第六小」として、すべての子供が生き生きと学び、安全・安心で信頼される学校であり続けるよう、全教職員が「子供の今と未来に大切なこと」を考え、主体性と確かな指導力、よさを発揮し、子供の生きる力を育む学校経営を進める。

府中版コミュニティ・スクールの仕組みを生かした教職員、保護者、地域の連携・協働体制を進め、地域人材や地域資源を生かした豊かなふれあい、確かな児童理解、全ての児童にとって「楽しくよく分かる・できる」指導を行う。そして、学校に関わる様々な人が子供の健やかな成長に向けて知恵や力を出し合い、将来への夢や希望、取り組みたいことを実現させ、愛着と誇りのもてる学校をつくる。

- 明日が楽しみな学級・学年・学校経営を基盤に、「子供の今と未来に大切なこと」を考え、「チーム府中第六小」で地域と共にある学校経営を行う。
- 人材育成、組織力の向上を図り、各主任を中心にリーダーシップとフォロワーシップを発揮させ、子供とチームのため、自分にできる役割を実行し、組織貢献力を高める。

3 目指す学校像

府中第六小学校のよりよい校風を受け継ぎ、築くのは子供たち自身であることの自覚と自信を育て、学校のよさをたくさん見つけながら開校70周年に向けて夢を膨らませ、その先の未来につなげる。

「認め合い、高め合い、みんなでつくる 楽しい学校」

- 一人一人がよりよい校風を受け継ぎ、誇りに思う学校をつくる
- 互いのよさを認め合い、高め合う、あたたかな人間関係をつくる
- 自ら考え、かかわり合い、チャレンジして、明日が楽しみな学校をつくる

4 目指す教職員像

公教育に携わる者として、教職員一人一人が使命と職責を深く自覚し、児童、保護者、地域からの信頼の向上に努める。また、児童の意欲や心情を大切にしながら、受容的で温かいコミュニケーションと指導力の向上に努め、児童一人一人に学びに向かう力や豊かな人間性、小学校段階における基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力等を育む。

教育活動の連続性を踏まえ、報告・連絡・相談を適時適切に行い、同僚、保護者、地域と連携・協働しながら、教育内容の向上と学校課題の解決に取り組む教職員、興味・関心の幅を広げ、前向きで粘り強く教育活動を推進する教職員集団を形成する。

また、教職員が児童と向き合い、学びの質や学校生活を向上させることができるよう、仕事分担の平準化、支援が必要な児童への指導員の配置、校務のデジタル化や教材の共有化、会議の短縮、出退勤管理等により、仕事の効率化を図る。

【府六プライド】 ◎愛と情熱、敬意と誠意を併せもつ教職員

- 明るく、あたたかく、誠実で、協働する教職員
- よさを生かし合い、対話を大切にして、チャレンジする教職員
- 組織力を活かし、主体的に課題を改善し、ピンチをチャンスに変える教職員

5 府中第五中学校区で目指す児童・生徒像

就学前教育と小・中学校9年間を通した連携教育活動により、途切れのない滑らかな指導を目指す。

各教科等における系統的な指導とともに、小・中学校の接続期間において、授業規律やいじめ防止の取組、不登校の未然防止に向けた連携など生活指導の充実を図る。また、「学力・体力の向上」「行事への参加」「学校状況の理解」「環境整備の充実」等で地域の方々の協力を得るとともに、小・中学

生が地域の市民力となり貢献する教育活動を進め、学校・家庭・地域が一体となって知・徳・体の調和の取れた児童・生徒の育成に努める。

○自ら学び、考えることができる児童・生徒 ○思いやりの心をもった心身ともに健康な児童・生徒

6 中期的目標及び方策

府中版コミュニティ・スクールの推進（ネットワーク型学校経営）、カリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを進め、地域人材や地域資源の積極的な活用と児童・学校による地域貢献を図り、次の学校づくりを推進する。

① 確かな力を身に付けさせる学校	② 健やかな体を育む学校	③ 特別支援教育の理念を踏まえ個を伸ばす学校
<ul style="list-style-type: none"> ・ どの子にも楽しく分かる授業の工夫 ・ 反復学習、家庭学習、補充的学習の充実 ・ 外国語活動の充実によるコミュニケーション力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力や運動への関心・意欲の向上 ・ 心身の健康保持増進に関する意識の向上と生活習慣の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育体制の充実 ・ 支援計画に基づく計画的な特別支援教育の実施 ・ 個に応じた指導の充実

④ 豊かな心を育む学校	⑤ 地域とともに子供を育む学校	⑥ つながりのある学校
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他を大切にし、思いやりのある児童の育成 ・ いじめ、不登校等の課題への即時・早期・組織的対応の実施 ・ どの子にも分かる、守れる生活ルールの指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 府中版コミュニティ・スクールと創立70周年に向けた取組の推進 ・ 「ふるさと府中」に誇りをもつ児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園、保育園、中学校区の連携強化 ・ たてわり班活動による異年齢集団での望ましい人間関係の育成 ・ 学校生活の積極的な情報発信

7 今年度の取組目標及び方策（☆重点目標）

（1） 確かな力を身に付けさせる学校

① どの子にも楽しく分かる授業の工夫（☆重点目標）

授業の構造化や言語活動を意図的・計画的に取り入れ、「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の視点を取り入れた授業を充実させる。主体的・対話的で深い学びを実現し、どの児童にも「分かる・できる」喜びを味わわせ、自主的、自発的に学習する態度を育てる。

全学級でタブレット端末やICT機器を効果的に活用し、児童の興味・関心を高め、主体的に課題解決し、互いのよさから学び合う効果的な授業づくりを推進する。

算数科では、習熟度別少人数指導を充実し、個に応じた基礎的・基本的な学習内容を定着させ、個別最適な学びを推進する。

【成果目標】 授業がよく分かるという児童85%以上、「府中市立小・中学校のグランドデザイン」を基に授業改善に取り組んだ教員90%以上

【方 策】 授業の構造化、主体的・対話的で深い学びの実施、タブレット端末やICT機器を効果的に活用した指導の推進、算数科の習熟度別少人数指導の充実

② 反復学習、家庭学習、補充的学習の充実（☆重点目標）

「eライブラリアドバンス」「東京ベーシック・ドリル」の活用、「詩の暗唱」や読書活動の充実、補充的な学習等の個に応じた指導を推進し、学力の向上を図る。また、「家庭学習週間」を設定し、家庭での予習・復習を見直し、学習習慣と学習内容の確実な定着を図る。

【成果目標】学力向上の取組を評価する保護者80%以上

【方 策】「eライブラリアドバンス」「東京ベーシック・ドリル」の活用、「詩の暗唱」や読書週間の充実、個に応じた指導の推進、家庭学習週間の設定

③ 外国語活動の充実によるコミュニケーション力の向上

A L Tと連携して、多様なアクティビティを取り入れた英語学習の指導を工夫し、「立川東京グローバルゲートウェイ（TGG）」での英語体験（第5学年）や「英語検定ESG（第6学年）」、「世界とつながる英語 Enjoy Week」の取組を生かして、英語学習への意欲の向上と英語によるコミュニケーションの充実を図る。

【成果目標】英語学習の楽しさを実感する児童85%以上

【方 策】多様なアクティビティを取り入れた英語学習の工夫・改善、「TGG」や「英語検定ESG」、「世界とつながる英語 Enjoy Week」の効果的な取組

（2） 健やかな体を育む学校

① 体力や運動への関心・意欲の向上（☆重点目標）

体力調査結果を活用した授業改善、「ふちゅうロープチャレンジ」を中心とした体力向上の取組、目標を設定して取り組む体力チャレンジにより、体力の向上と運動の楽しさを味わわせる。

また、「未来へつなぐ府中2020レガシー」と関連させ、スポーツやよりよい生き方への関心を高めるとともに、外遊びを励行し、運動の日常化を図る。

【成果目標】進んで運動する児童80%以上

【方 策】体育の授業改善、「ふちゅうロープチャレンジ」を中心とした体力向上の取組、目標を設定して取り組む体力チャレンジ、「未来へつなぐ府中2020レガシー」に関連した指導、外遊びの励行

② 心身の健康保持増進に関する意識の向上と生活習慣の向上

食物アレルギーの対応、食と健康、食事の習慣等についての意識を高める。また、東京都教育委員会発行のリーフレット等を活用した「がん教育」の充実、学期ごとに設定する「ノーディスプレイデー」などを通して、児童の生活習慣の改善・向上を図る。

【成果目標】生活習慣の定着について評価する保護者80%以上

【方 策】食育の推進、「ノーディスプレイデー」による生活習慣の見直し

（3） 特別支援教育の理念を踏まえ個を伸ばす学校

① 特別支援教育体制の充実（☆重点目標）

特別支援教育コーディネーター（2名）を中心に、校内委員会を定期的・効果的に開催し、特別な支援を必要とする児童・保護者への支援方針や、外部相談機関、医療機関への連携・接続等の検討を行い、速やかな支援につなげる。

また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回相談等による専門職の助言や特別支援教育への理解を深める研修を生かし、個の特性に応じた教育活動や課題の改善を図る。

【成果目標】自分のよさを実感する児童 85%以上

【方 策】特別支援教育コーディネーターの2名体制、SCやSSW、巡回相談員等の有効活用、校内委員会の効果的な開催、特別支援教育の研修実施

② 支援計画に基づく計画的な特別支援教育の実施（☆重点目標）

就学支援シートを受領した児童をはじめ、支援が必要な児童への「学校生活支援シート」、「個別指導計画」を作成・活用し、学校と家庭で定期的に目標と手だてを共有しながら、個に応じた指導の充実を図る。また、学校支援員を適切に配置し、児童の学習や生活の課題改善が円滑に図れるようにする。

【成果目標】支援計画に基づく計画的な特別支援教育に取り組んだ教員 80%以上

【方 策】「学校生活支援シート」、「個別指導計画」の作成・活用、学校支援員の適切な配置

③ 個に応じた指導の充実

学級・学校環境のユニバーサルデザイン化を組織的に行うとともに、特別支援教室けやきの指導の充実、学級担任とけやきの特別支援教室巡回指導員、特別支援教室専門員等と連絡・相談を密に行い、個に応じた指導の充実を図る。

【成果目標】3かけ（目・声・心）3ほめを徹底し、児童の変容を実感する教員 80%以上

【方 策】学級・学校環境のユニバーサルデザイン化、特別支援教室けやきの充実、担任・巡回指導教員等の連携強化、特別支援教育の理解・啓発の推進

（4）豊かな心を育む学校

① 自他を大切にし、思いやりのある児童の育成（☆重点目標）

「人権教育プログラム」を基に、進んで気持ちのよい挨拶ができる指導や、教職員自ら全児童の氏名に「さん」を付けて呼ぶ等、温かな言葉遣いを徹底する。子供同士でも、相手を尊重した呼び方や話の聞き方を心がけさせ、自他を尊重する心情と態度を養う。児童理解アンケートや「考え、議論する道徳授業」の充実により、豊かな心情や道徳的判断力・実践力の向上を図る。

【成果目標】あいさつや丁寧な言葉遣いをしている児童 85%以上

【方 策】あいさつ習慣の定着と温かな言葉遣いの推進、児童理解アンケートによる望ましい学級集団の育成、「考え、議論する道徳授業」の充実

② いじめ、不登校等の課題への即時・早期・組織的対応の実施（☆重点目標）

「府中第六小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを生まない、許さない学校づくりを進め、組織的に未然防止、早期発見、早期解決に努める。

「いじめに関するアンケート」、每学期初めに行う「いじめ防止授業」、「SOSの出し方の授業」、タブレット端末を活用した「心の健康観察」、「人権月間」を中心に、教職員、保護者、地域と連携して早期発見・早期対応によるいじめの根絶を図る。

また、不登校は、長期化する前に保護者と積極的に連携し、SSWによる継続的な支援やサポートルームを活用しながら、未然防止と早期解消、きめ細かな登校支援に努める。

【成果目標】楽しく学校に通っている児童 85%以上

【方 策】「府中第六小学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の推進、いじめ防止授業・生命尊重教育の充実、タブレット端末を活用した「心の健康観察」、サポートルーム等を活用したきめ細かな登校支援

③ どの子にも分かる、守れる生活ルールの指導の徹底

学校のきまりを守る大切さについて、「みんなのきまり」を基に教職員全員で統一した指導を行い、週ごとの振り返りや月ごとの重点目標による指導の徹底、毎学期の児童の振り返り等により定着させる。また、情報モラルの指導を計画的に繰り返し行う。

【成果目標】「みんなのきまり」が守れたと感じる児童85%以上

【方 策】チャイム着席・廊下階段歩行・整理整頓・丁寧な清掃指導の充実、生活指導夕会による指導状況の確認と徹底、情報モラルの計画的な指導

(5) 地域とともに子供を育む学校

① 府中版コミュニティ・スクールと創立70周年に向けた取組の推進（☆重点目標）

定期的に「学校運営協議会」を実施し、地域人材やPTA、おやじの会等との協働によりネットワーク型学校経営システムを構築し、キャリア教育の充実、漢字・算数検定、防災キャンプ、地域懇談会などを実施し、学校の教育力を高める。

また、創立70周年記念行事に向けた実行委員会を立ち上げ、学校の歴史や伝統、これまで府中第六小学校に関わってきた人たちの思いやよさを実感できる取組を工夫して、児童・保護者・地域の方々の学校への愛着と誇りを醸成する。

【成果目標】保護者・地域との連携による学校経営を評価する保護者85%以上

【方 策】定期的な「学校運営協議会」の開催、地域人材やPTA、おやじの会等との協働、周年行事に向けた実行委員会の立ち上げ

② 「ふるさと府中」に誇りをもつ児童の育成（☆重点目標）

地域の自然環境や教育資源等を有効活用し、市政施行70周年と関連付けながら、教科横断的な学習、体験活動、言語活動の一層の充実を図り、自ら課題を見付け、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決していく資質や能力を育成する。また、地域の人々と関わる機会を数多く設定し、勤労や奉仕の意義を理解して、地域貢献しようとする意識と実践意欲を高め、取組を広く発信する。

【成果目標】まちのよさを知り、愛着をもつ児童80%以上

【方 策】全学年における「ふるさと学習」及びSDGSと関連付けた学習の推進、学校農園を活用した栽培学習、「郷土府中に根ざした道徳資料集」の活用

(6) つながりのある学校

① 幼稚園、保育園、中学校区の連携強化

幼稚園や保育園との情報連携や小中連携教育を通して、学習面・生活面で共通の課題の把握や改善のための取組を進める。

ア) 学習指導に関する連携推進

教科の円滑な接続や家庭学習の習慣化、キャリア教育を推進し、学習意欲や基礎的・基本的な学力の向上、学習習慣の定着、社会的自立の基盤となる能力や態度を育てる。

【成果目標】小中連携の学習指導の取組が進んだと評価する教員80%以上

【方 策】公開授業の実施による系統的な指導の充実、児童・生徒による交流活動の実施、9年間を見通した継続的なキャリア教育

イ) 生活指導の課題の共有と校区共通の取組推進

校区として生活意識や規範意識の向上、配慮の必要な児童・生徒が落ち着いて学習活動に取り組める環境整備と指導方法の共通化を図る。

【成果目標】小中連携の生活指導の取組が進んだと評価する教員80%以上

【方 策】挨拶運動や学校行事における連携、生活指導情報の共有と解決策の実施、配慮の必要な児童への指導方法の共有化

② たてわり班活動による異年齢集団での望ましい人間関係の育成（☆重点目標）

定期的なたてわり班活動で「ラララコンサート」「お楽しみ会」「地域清掃活動」を行い、高学年のリーダー性を高め、異年齢集団での望ましい人間関係を育成する。

【成果目標】たてわり班活動による児童の心の成長を実感する教員80%以上

【方 策】たてわり班活動による児童の主体的な遊びや行事の充実

③ 学校生活の積極的な情報発信（☆重点目標）

学校だより、学年だより（学年の窓）の充実とスマート連絡帳の更なる活用を図り、教育活動の様子を積極的に広報する。校長講話の発信、学校ホームページの積極的な更新と内容の充実等により、学校の指導方針や児童の成長の様子を分かりやすく発信し、保護者・地域との連携強化を図る。

【成果目標】学校生活の様子が分かると感じる保護者85%以上

【方 策】スマート連絡帳の活用、学校ホームページの積極的な情報発信、校長講話の発信